

東京大学低温センター

低温センター・ニュース

TEL. 2851,2852(事務室), 2853(技官室)

ご挨拶 センター長交替にあたって 低温センター長 鹿児島 誠一（教養学部基礎科学科第一）

1月1日より2年間の任期でセンター長をつとめることになりました。低温センターがその役割を十分に果たせるよう努力したいと思いますので、関係者の皆様の御協力と御援助をお願いいたします。低温センターは前センター長のもとで、新鋭ヘリウム液化機の導入による供給能力の飛躍的向上を果たしました。また、教養学部内低温サブセンターには、今年度中に新たにヘリウム液化機が設置されることになっています。これによって、全体としてのヘリウム供給能力が高まるだけでなく、本郷・駒場間の液体ヘリウム容器・回収ガスボンベのトラック輸送が不要となり、多くの面でメリットが見込まれます。

寒剤の使用量は年々、まさに指数関数的に増加の一途をたどっています。ますます低温環境があたりまえのものとして使われることになっているわけで、それだけ研究・教育の質が高まったといえるでしょう。しかし、寒剤のうちでも特にヘリウムは貴重な資源です。単に我が国に産出しないという理由だけではなく、地球規模の理由で資源の節約と再利用が必要です。低温センターの供給能力は向上し、また安価に供給されているので野放図に使いがちですが、地球の資源のことを考えれば、寒剤使用の無駄をなくさなければなりません。私達が寒剤を使う時に、知識の不足のために無駄を生じることのないよう、低温センターでは新たに寒剤を使用する人に対する、基礎知識と技術の教育をおこなうことを考えています。

本学では、全学的に大学の機能の点検が進められているほか、柏キャンパス計画など組織の改編計画も進行しています。低温センターも当然これらの動きと密接に関係していますので、低温センターの現在と将来の姿について、関係者の皆様の御助言、御提言をお願いいたします。

（昨年11月21日の第79回運営委員会で教養学部の鹿児島誠一教授が新しく低温センター長に選出されました。）

○液体ヘリウムの供給停止のお知らせ

高圧ガス取締法に基づき、2月20日(月)から2月24日(金)の間、センター及び理、工各サブセンターの主要設備の定期自主検査を行います。

これに伴い、2月23日(木)と24日(金)の2日間、液体ヘリウムの供給を停止いたします。

なお、ヘリウムガスの回収は回収装置の点検時間を除き常時できます。

○液体窒素容器の再登録について

現在液体窒素の供給を受けている研究室で、登録容器の変更(学科名の変更等)、譲渡、廃棄などがありましたらご連絡下さい。再登録、抹消などの手続きが必要です。

なお、『液体窒素容器登録申請書』はセンター技官室にあります。

○サブセンター別ヘリウムガス回収率

平成6年12月分(単位は全て立方メートル)

	12/1在庫	1/1在庫	供給量	回収量	損失量	回収率(%)
理サブ	269.4	376.7	1411.2	811.4	493	62.2
工サブ	117.3	62.2	806.4	632.2	229	73.4
教養サブ	461.4	560.7	919.8	637.3	183	77.7
浅野第一	98.6	173.4	65.1	55.8	-66	-
分生研	38.6	34.2	21.0	16.2	9	63.7
農芸化学	142.4	146.2	87.5	75.9	8	90.6
総合試験所	160.5	29.3	465.5	426.4	170	71.5
システム	2.6	0.5	14.0	11.2	5	69.5
備考	回収量 ☆回収率 = (供給量+12/1在庫)-(1/1在庫) ☆回収ガスは純度100%として回収量、回収率を計算					

☆センターニュースに関するお問い合わせは、内線2853まで☆